

アニメ・映画作品をベンチマークに技術進歩を可視化する
オープンデータ基盤『Future Tech Benchmark』を、本学の緑川教授が開設・無料公開
～『ドラえもん』の「ひみつ道具」は、どこまで実現したのか？～

東北芸術工科大学（山形県山形市、学長：中山ダイスケ）デザイン工学部の緑川岳志教授は、現在、空想の未来を機能要件へ分解し、AI・技術・事業機会へ翻訳する研究と教育に取り組んでいます。この度、著名アニメ・映像作品をベンチマークに、現代先端技術との対応関係を機能単位で網羅的に検証した学術オープンデータ『未来技術ベンチマーク (Future Tech Benchmark)』を構築し、2026 年 10 月 1 日（木）よりウェブサイトにて全データを無料公開いたしました。



▶『未来技術ベンチマーク』公式サイト（10 月 1 日公開） <https://future-tech-benchmark.org/>

本ウェブサイトでは、未来技術を描いた作品としてグローバルに浸透する『ドラえもん』、『名探偵コナン』、『バック・トゥ・ザ・フューチャーPART2』に登場する技術・機能・サービス等を分析対象とし、外観の類似ではなく、ユーザーが求める機能的価値を起点に、現代技術での実現度を検証しています。

■ 海外先行事例（Technovelgy 等）との違い・本プロジェクトの独自性

SF やポップカルチャーに登場する空想技術と現実技術の対比は、これまでも米国の大規模データベース「Technovelgy」や国内の解説書籍等で試みられてきましたが、その大半は「有名なガジェットを任意に選定した単発の解説・読み物」に留まっていました。

本プロジェクトでは、『ドラえもん』のひみつ道具として登場する技術・サービス 1,498 項目（テレビ朝日「ひみつ道具カタログ」掲載項目）、『名探偵コナン』に登場する機能・技術 32 項目、映画『バック・トゥ・ザ・フューチャーPART2』に登場する技術・サービス 34 項目を対象に、次の 3 点において既存のアーカイブと一線を画す学術的・実践的アプローチを採用しています。

1. 母数を固定した「悉皆（全数）調査」

公式カタログ等の掲載項目を任意に抽出せず、3 作品の全 1,564 項目を母数として固定。これにより、作品世界全体の技術実現度をバイアスなく統計的に算出可能にしました。

2. デザイン工学的視点による「機能要件の分解」と「代替実現（△）」の評価

道具の「外見・ギミック」ではなく、「人間にもたらす本質的な機能的価値」に分解して評価。物理的装置としての実現だけでなく、生成 AI や VR、空間コンピューティングによる「別手段・仮想空間で

の体験代替 (△)」という現代特有の進化経路を明確に区分・可視化しました。

3. 四半期ごとの定点観測 (ベンチマーク)

3 ヶ月ごとに技術の進展や判定の更新を追跡・記録。人類の科学技術がどの領域から SF に追いつきつつあるのかを時系列で定点観測します。

■ オープンデータ公開と今後の展望

・教育・研究目的での完全無料公開

全 1,564 件の個別分析 CSV、詳細分析 PDF レポート、PowerPoint スライドをサイト上で完全無料配布します。大学・高校での探究学習、デザイン工学の講義、企業での新規事業創出ワークショップの議論基盤として自由にご活用いただけます (所定の出典明記が必要)。

・四半期 (3 ヶ月) ごとの定期更新

次回更新は 2027 年 1 月 1 日を予定しており、四半期ごとの技術進展差分を追跡・公表します。

・グローバル展開および他の作品のアイテムへ対象拡大

海外からの参照を想定した英語版サイトの開設をしており、1980 年代の未来予測を描いた『バック・トゥ・ザ・フューチャー PART2』、1990 年代からの工学技術を描いた『名探偵コナン』を含め、他作品の技術一覧・横断比較も順次実装予定です。

■ サイト概要・研究者情報

・サイト名：未来技術ベンチマーク (Future Tech Benchmark)

・URL：<https://future-tech-benchmark.org/>

・公開日：2026 年 10 月 1 日 (木) (※分析基準日：2026 年 9 月 20 日)

※本プロジェクトは教育・研究を目的とした分析であり、作品権利者・放送局等の公式事業、認定、監修を示すものではありません。



担当研究者：緑川 岳志 (東北芸術工科大学 デザイン工学部教授／イノベーション&コミュニケーション研究所副所長)

大学卒業後、株式会社リクルートに入社。営業、企画、新規事業の事業責任者を歴任する。その後、毎日新聞社を経て、地域医療と地域コミュニティ活性化を担う株式会社毎日新聞ローカルを設立し、代表取締役社長に就任した。同社で 5 年間の実務を経たのち独立。地域を軸にしたマーケティング事業会社として株式会社ミトコンドリアを設立し、代表取締役に就任する。医療領域におけるネットを活用したセカンドオピニオン事業を手掛けたほか、自動車、化学、食品、通信、オンラインサービスなど、多岐にわたる企業の新規事業開発案件やマーケティング事業に従事してきた。現在は、自動車の位置情報を活用した社会実装事業や、「推し活」や IP コンテンツに関するマーケティングおよびその分析、新規商品開発、コンサルティング事業を手掛けている。

■ 報道・取材に関するお問い合わせ

東北芸術工科大学 法人企画広報課 E-mail：public@aga.tuad.ac.jp TEL：023-627-2246